

諏訪ユネスコ協会 学習会

諏訪ユネスコ協会会長 矢崎靖雄
地域遺産部長 清水勝喜

日時 令和 2年10月 3日（土）10時から正午まで

会場 ゆいわーく茅野 3階会議室

内容 第一部箏の演奏と学び 第二部縄文を語ろう

箏曲と歴史

～古典の継承と箏の響き～

講師プロフィール

宮下悦子（みやしたえつこ）氏



生田流箏曲演奏家
栗林秀明氏、深海さとみ氏、泉山章子氏に師事。

石森康雄氏による指導者養成セミナーに参加。

平成 17 年からソロ活動を開始。「宮下悦子 箏・十七絃リサイタル」3 回、「絃花風管 箏&フルートコンサート」8 回、「玉響の会 箏コンサート」2 回を開催。他の楽器とコラボレーションするなど、幅広いジャンルに取り組んでいる。

平成 25 年 6 月には、都留市で行われた国民文化祭で茅野市混声合唱団とともに「いつの世も」を発表し、好評を博した。

また、教育機関・福祉施設等でボランティア演奏を行うほか、県内外の演奏会へも多積極的に参加し、箏の伝統や古典

を継承しつつ、子どもたちや多くの方に親しみをもっていただくための活動を行っている。

玉響（たまゆら）の会主宰

縄文の諏訪

～日本遺産と井戸尻文化～

講師プロフィール

小松隆史（こまつたかし）氏



1970 年 長野県岡谷市に生まれる。
1980 年 学校の近くの遺跡で初めて縄文土器を拾う。
1984 年 遺跡で拾った石器が、3500 年前の石の錘（おもり）だと、学芸員に教えてもらい衝撃を受ける。将来の道が決まる。

1990 年 金沢大学文学部史学科に入学。
1993 年 大学の指導教官について国際調査プロジェクトに参加。UAE の Julfar 遺跡（中世の港湾都市：海のシルクロード）の発掘調査に参加する。
1994 年 長野県富士見町に就職。井戸尻考古館に勤務。以後、「自ら縄文人に近づく」を信条に、研究、発掘調査を続ける。

1998 年から 3 年間、休日を利用して金沢大学大学院に通う。修士論文は「近世信濃の窯業史研究」で提出。

現在 井戸尻考古館館長

○著作（共著）

『甦る高原の縄文王国』 2004 井戸尻考古館編 言叢社
『中近世陶磁器の考古学 第六巻』 2017 雄山閣